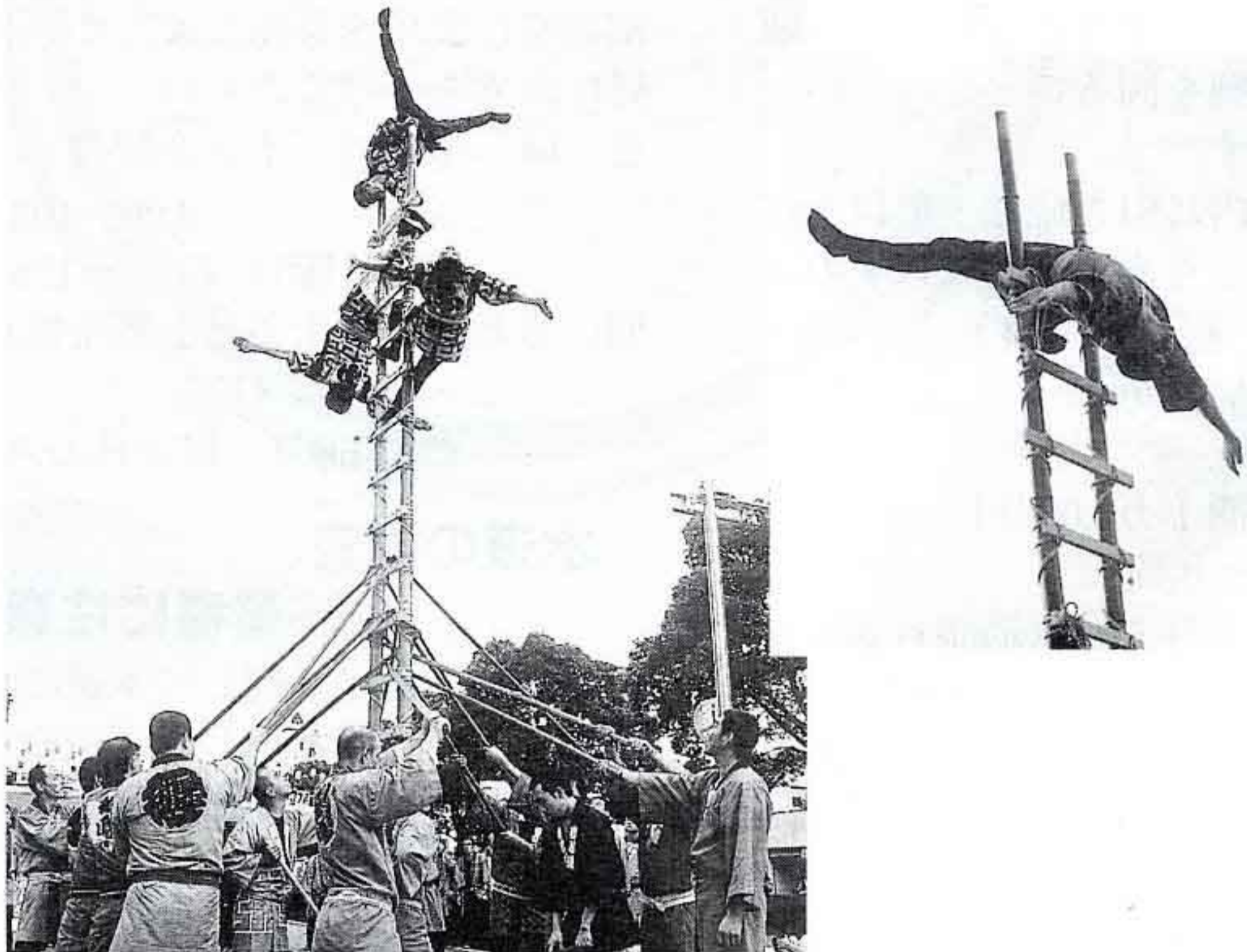


# わか と び か い 若 鷺 会



第13回



富士まつり 7月28日(日)

木遣り・まとい・はしご乗りはとび職人が受け継いできた技です。「木遣り」は労働現場で合図やかけ声となり仲間同士をつないできました。「まとい」は武器であり、軍旗に匹敵するものです。「はしご乗り」はとび職人の準備運動として行われたのが由来です。

『若鷺会』は、ことしで三十周年を迎える富士地区鷺工業連合会の青年部として昭和五十七年に誕生しました。現在、二十代半ば〜四十代後半の合わせて十六人の会員がいます。会員は、とび職だけではなく、土木・建設業に携わるいろいろな人がいます。

演じるとき、始めに木遣りで幕を開けます。そして、高さ七メートル五十二センチのはしごに乗り、小さきまなまといを振り、最後に木遣りで締めくくります。得手不得手はあるものの、会員はすべてできるように、実演する一か月前くらいから練習を始めます。

主な活動は、お正月に三日市浅間神社、米之宮神社で行う初出のほか、甲子祭や富士まつり、ふるさと芸能祭、吉原祇園祭での披露などです。



富士地区鷺工業連合会  
若鷺会会長  
山崎 雅浩さん(鮫島)

若鷺会に昭和六十年から入っています。当時、先輩から学んだ心意気を若い人たちに伝えていきたいと思っています。新しいからいいと思うのではなく、古くてもいいものはいいと感じてほしいですね。

建設業は上下関係があり敬遠されがちで、新しい人の育成に苦労しています。確かに厳しさもあります。ただ、それだけではありません。若い人たちが弟のようにかわいく思い、接しています。

この会は、ほかにも地域の活動や資格を取得する支援も行っています。まず現場仕事があつて、この活動が成り立っていると考えています。ふだんの経験が、はしご乗りなどに結びついているように思います。

元気のよさは静岡県で一番だと感じています。伝統の技と心意気を伝承したいですね。

## こちら編集室

この1か月、どこに行ってもサッカーワールドカップの話題でもちきり。Jリーグ発足後、サッカーファンになった私も、テレビにかじりつく毎日でした。W杯では日本代表が大健闘。試合後もテレビニュースをはしごしたり、ピデ

オで何度もゴールシーンを再生したりして、余韻にひたりました。家族にはあきれられました。地元出身の川口選手の勇姿を見られなかったのは残念でしたが、次のW杯には、地元選手がピッチで輝く姿を見てみたいですね。

人口 242,060人 (前月比+28)  
男 120,520人 (0)  
女 121,540人 (+28)  
世帯 83,544世帯 (+71) 6月1日現在  
編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100  
☎51-0123(代) FAX 51-1456

